

ニイガタヒューマンライブラリー@SEIRYO
～あなたを知って、私を知りたい～ オンライン Zoom 講座

「読書」 = 「対話」 のすすめ

ヒューマンライブラリーの魅力は「本」と「対話」ができること。質問だけでなく、感じたこと、ご自分の経験など、「本」の方、他の「読者」の方たちとなんでも自由お話ししてみてください。気づくと「読者」が「本」になっていたりして。そんなことも起こってしまうのがヒューマンライブラリーの「対話」の魅力です。以下によくある質問とその答えを少しまとめてみましたのでお読みください。



Q. 「読書」 = 「対話」ってどんな風に進められるの？

A. 特に決まった進め方はありません。「本」によって違いますが、多くの「本」のみなさんは最初に自己紹介がてら少しお話をしてくださってから、「質問とか、なんでもどうぞ！」とふってきます。進行役も決まっていますので、30分という時間を自由に「おしゃべり」感覚で「対話」を楽しんでください。

Q. なぜ最初から「本」が2冊セットされているの？自由に、読みたい「本」だけを読みたいのに。

A. 図書館で目的の本を借りたけど、ふとそばにあった本を手にとってみると、実はそこにもとてもおもしろい新しい世界が広がっていた、なんてことがありますよね。ヒューマンライブラリーは、そういった偶然の出会い、「多様性との出会い」を大事にしています。今回は便宜上「本」を2冊セットで「お貸し」することになりますが、そこで偶然の素敵な出会いがありますように。

Q. なぜ「読者」は少人数なの？もっと多くでもいいじゃない。

A. ヒューマンライブラリーは「対話」を基本としています。「読者」が多くなると単なる講演会形式になり「対話」が成立しなくなります。有意義な「対話」になるように「読者」の数を制限しています。

Q. 興味あることはなんでもきいていいけど、でも「本」を傷つけちゃいけないって…難しい。やっぱり遠慮しちゃうな。

A. 特に「察しの文化」を持つ日本人にとっては難しいですよね。でも「故意」に傷つけようとしなければいいんです。なんでもきいてみてください。答えたくないことなら「本」の方はそう伝えてくれます。これも「対話」なんですよ。

Q. 30分なんて短すぎ。まだまだお話聞きたいし、質問したいことだって沢山あるのに。

A. 「まだまだ足りない」それでいいんです。「対話」は答えを導かなくてもいいもの。「対話」から新たな疑問がわき出てくるもの。モヤモヤが残ってもいいんです。「興味」や「疑問」を持ったなら、今度はご自分の世界の中で「それ」に目を向けてみてください。

ヒューマンライブラリー初体験の方は、最初は少し緊張してしまうかもしれませんが、そんな気持ちも素直に言葉にして伝えながら、どうぞ「読書」を楽しんでください。当日のZoom内での流れは、担当の学生司書がご案内しますので安心してご参加ください。